



最新模拟试题

日本留学测验 新倾向对策

【听解】

愛知国際学院 編



南开大学出版社
天津电子出版社

Examination for Japanese University Admission for International Students

EJUシリーズ

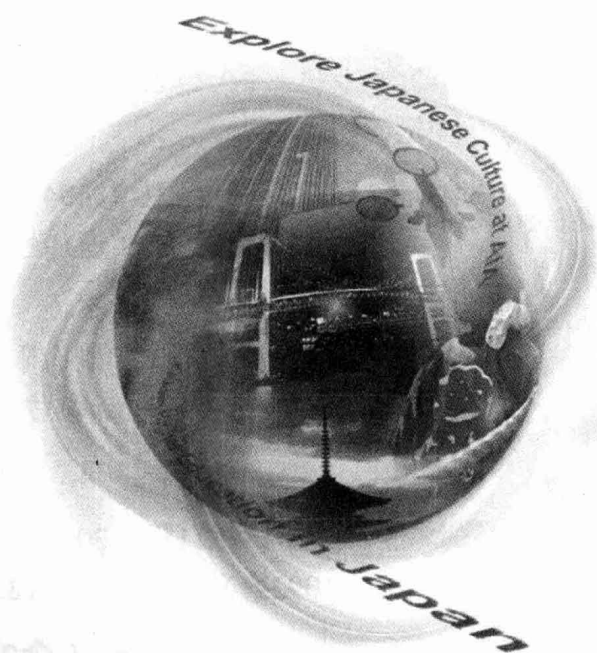


最新模拟试题

日本留学测验 新倾向对策

【听解】

愛知国際学院 編



南开大学出版社
天津电子出版社

本著作物由大新书局授权出版

天津市版权局著作权合同登记号：图字 02-2007-81

图书在版编目 (CIP) 数据

日本留学测验新倾向对策最新模拟试题. 听解/日本
爱知国际学院编. —天津：南开大学出版社，2008.1

ISBN 978-7-310-02566-4

I. 日… II. 日… III. 日语－视听教学－高等学校－入
学考试－日本－习题 IV. H369.6

中国版本图书馆CIP数据核字(2007)第202649号

版权所有 侵权必究

南开大学出版社、天津电子出版社出版发行

出版人：肖占鹏

于志坚

地址：天津市南开区卫津路94号 邮政编码：300071

天津市南开区长实道19号 邮政编码：300191

※

天津新华二印刷有限公司印刷

全国各地新华书店经销

※

2008年1月第1版 2008年1月第1次印刷

787×1092毫米 16开本 12.25印张 94千字

定价：29.80元（含2张光盘）

如有图书印装质量问题，请与营销部联系调换，电话：(022)23678808

はじめに

本書は、新傾向の問題集です。

私たち、日本留学試験研究会は「講義を受ける日本語力をどう育てればよいか」と問い続けながら問題を作成し、問題集にはその中から各科目40問ずつ取り上げました。形式は日本留学試験に準じています。また、短時間で効果的に力が伸ばせるように一問一問に練習問題をつけました。設問に答えたり書き込んだりする活動を通して、キーワードを覚えたり、考える力を身につけたりすることができるようになっていきます。外国で学ぶ学習者の皆さんには自習書として、また国内の日本語学校では段階的に能力を高める教材として使える問題集です。

本書では、新しいテーマのものを積極的に取り上げました。各問題には練習問題のほかに関連語彙をのせ、大学生が知っていなければならないような語彙や表現を多く盛り込みました。必要な語彙は日々変化して、新しいものが増えています。特に海外で学習する皆さんには、このページは大きな助けとなると思います。巻末には、新聞をはじめ様々なジャンルの参考引用資料が上げられています。ここからも本書の特徴がわかっていただけたと思います。新しい情報、知的な問題が詰まった本書で、楽しく効果的にアカデミックジャパニーズを身につけてください。

副題は「講義を受けるための思考力を養う」としました。問題を解くことによって考える力が養えるように、設問のしかたにも工夫を凝らしました。40問の問題の後半には、一部、難易度の高い問題もあります。この部分は試験対策としてはもちろん、大学入学直前の準備教育としても使えるものです。

本書が、多くの学習者の皆さんの役に立つことを願ってやみません。使ってくださった後のご意見は、ぜひ本校宛にメールしてください。今後の参考とさせていただきます。

編 者

出版にあたって

従来の日本語能力試験にかわり、新しく実施される日本留学試験が日本の大学進学に利用されることとなり、形式やその試験の問うものがまったく新しいものであることがわかると、日本語学校などの日本語教育機関では、新試験にどのように対応したらよいかということが大きな問題となりました。

私どもの学院でも「日本留学試験の目指すアカデミックジャパニーズとはいったいどういうものなのだろうか」「どういう形で対応したらよいだろうか」と大きな問題になりました。そして模擬の問題集もほとんどない現状と大学の授業を受けるに足る日本語力が要求されているということから、では、自分たちで問題を作ろうということになりました。かれこれ3年前のことです。当初の計画では、もっと早く完成する予定でしたが、スタートしてみると予想より大幅に時間がかかり、今回ようやく完成の運びとなりました。

留学試験も回を重ねる間に問題の傾向に変化があり、私どもの目指した方向は間違っていなかった、と意を強くいたしました。そして、ぜひ他の学校の先生がたにもみていただいて、問題集に対するご批判やご意見をいただきたい、できれば使っていただいてその結果などを教えていただきたいと考えております。率直なご批判等お待ちいたしております。

愛知国際学院

学院長 莊 昌憲（瑞平）

この本の使い方

この問題集を自習用として使う学習者のみなさん、問題にはそれぞれ練習問題がついています。より短い時間で能力を高めるためには、下のような順で使うと、より効果的です。

この本を教室活動の中で使う場合は、キーワードの確認の質問文を（活字としては一切見せずに）教師が読み上げて学生に答えさせるという活動が効果的です。

この本は、問題一問に対して、それぞれ4ページの構成になっています。

1 ページ目 マークシート

答えを選んだあとで…

練習問題のページ

2 ページ目 聴解CDの内容 スクリプト

マークシートの答え

3 ページ目 練習問題の答え

解答のページ

4 ページ目 ことば・関連語彙 表現・例文

① まずCDを聞いて、問題を解きます。1 ページ目

② 答えは2 ページ目の終わりにありますが、ここではまだ確認しないでください。
もう一度CDをきいて、1 ページ目後半の「答えを選んだあとで…」に進みます。

キーワードの確認 質問をよんで、口頭で答えよう

聴解の力をより効果的に伸ばすために、答えを確認する前にキーワードを使って解く練習問題があります。ここで、漢字の言葉がひらがなで書いてあるのには、理由があります。

聴解問題を自習する場合には、それを先生に日本語で説明してもらったり、大切なことばを何度も繰り返し聴く機会がないので、

「問題が難しくて解けない。分からない言葉がある。」

↓

「CDの内容を文字、つまり漢字を見て理解する。（漢字や意味が、まず記憶に残る。漢字の言葉を音で覚えようという意識が働きにくい。）」

↓

「次回違う問題で同じ言葉を聞いても、また分からない」

↓

「また、CDの内容を文字で確認しなければならない」

という悪循環に陥る危険があります。この問題集では答えを漢字で確認する前に、キーワードの確認ができるようになっています。

1. キーワードを視覚（漢字）ではなく音で覚えることができ、聴解力がより確実に身につきます。
2. 聴解問題では、分からない部分を聞き飛ばす力も要求されます。この練習では、キーワードに重点を絞った聞き方ができていたかどうかを確認できます。問題が解けたと思っても、聞き取りの能力が十分でなければこの「キーワードの確認」の問題には答えられません。
どこまで聞き取ることができたかが、この練習でははっきりわかります。

「キーワードの確認」の問題は、できればCDを聞きなおさずに解けるといいのですが、難易度が高い問題ではもう一度CDを聞いてから解いてもかまいません。

- ③ では 1 ページ目 後半の「もう一度CDを聞いて、書こう」の問題に進みましょう。

もう一度CDを聞いて、書こう

書くことにより、内容を確認しよう

答えが正しいかどうかだけでなく、どこまで聞き取ることができているかを自己チェックできるようになっています。CDの内容がまとめてある問題を段階を追って解くことで、どうしてその番号が答えになるのか、がわかるよう作られています。

聴解問題を解くときには重点を絞って聞くことが一番大切ですが、この練習ではさらに細部まで聞き取るための練習ができます。

④ 答えの確認

「キーワードの確認」「もう一度CDを聞いて、書こう」の2つの練習が終わったら、練習問題の答えが 3 ページ目 にありますので確認しましょう。ここでマークシートの答え 2 ページ目 も確認しましょう。

2 ページ目 には文字で表したCDの内容がありますから、聞き取れなかった部分などがあれば、ここで確認しましょう。

- ⑤ 答えの確認が終わったら、4 ページ目 の練習「ことば・関連語彙」「表現・例文」に進みましょう。

ことば・関連語彙

問題文の中に出てきたことばと、それに関連のある語彙が取り上げてあります。数があまり多くならないように重要なことばが選んでありますので、すべて覚えるつもりで取り組みましょう。

この問題集では、大学生活を送るために必要な能力をつけることを目標に日本留学試験の難易度よりも難しいと思われることばも、取り上げてあります。

表現・例文

上級で必要となる文型だけでなく、聴解能力に必要な話し言葉や、文章の型なども取り上げてあります。話し言葉はそれに対応する書き言葉とともに挙げられていますので、文体の差にも気をつけて学ぶことができます。

マークシート マークの仕方

聴解問題の解答欄には「正しい」という欄と「正しくない」という欄があります。選択肢1, 2, 3, 4の一つ一つを聴くごとに、正しいか正しくないか、マークしてください。

たとえば、3番が正解の問題の場合

1 番	正しい	①	②	●	④
	正しくない	●	●	③	●

のようにマークします。マークは四つ全てしなければなりません。正しい答えは一つです。

日本留学試験 実施要項

1. 目的

外国人留学生として、我が国の大学（学部）等に入学を希望する者について、日本語力及び基礎学力の評価を行う。

2. 実施者

独立行政法人日本学生支援機構（以下「機構」という。）が、文部科学省，外務省，大学及び国内外の関係機関の協力を得て実施する。

3. 試験の方法，内容等

(1) 対 象：外国人留学生として、我が国の大学等に入学を希望する者

(2) 試験日：年 2 回 第 1 回 6 月 第 2 回 11 月

(3) 実施地：国 内 北海道，宮城県，群馬県，埼玉県，千葉県，東京都，神奈川県，石川県，愛知県，京都府，大阪府，兵庫県，岡山県又は広島県，福岡県及び沖縄県

国 外 インド（ニューデリー），インドネシア（ジャカルタ及びスラバヤ），韓国（ソウル及びプサン），シンガポール（シンガポール），タイ（バンコク），中国台湾，フィリピン（マニラ），ベトナム（ハノイ及びホーチミン），マレーシア（クアラルンプール），ミャンマー（ヤンゴン），モンゴル（ウランバートル）及びロシア（ウラジオストク）

(4) 出題科目等

受験者は、受験希望の大学等の指定に基づき、以下の科目の中から選択して受験する。

科 目	目 的	時 間	得点範囲
日 本 語	日本の大学等での勉学に対応できる日本語力 (アカデミック・ジャパニーズ) を測定する。	120 分	0 ～ 400 点
理 科	日本の大学等の理系学部での勉学に必要な理科 (物理・化学・生物) の基礎的な学力を測定する。	80 分	0 ～ 200 点
総合科目	日本の大学等での勉学に必要な文系の基礎的な 学力、特に思考力、論理的能力を測定する。	80 分	0 ～ 200 点
数 学	日本の大学等での勉学に必要な数学の基礎的な 学力を測定する。	80 分	0 ～ 200 点

[備考]

① 日本語の科目は、記述、読解、聴解、聴読解の4領域から構成される。

ただし、記述の評価は、上記の得点範囲には含めず、文法的能力及び論理的能力について基準に基づき採点し、0～6点の範囲で表示する。

② 理科について、受験者は、受験希望の大学等の指定に基づき、物理・化学・生物から2科目を選択する。

③ 数学について、受験者は、受験希望の大学等の指定に基づき、文系学部及び数学を必要とする程度が比較的少ない理系学部用のコース1、数学を高度に必要とする学部用のコース2のどちらかを選択する。

④ 理科と総合科目を同時に選択することはできない。

⑤ 上記の得点範囲は、素点ではなく、共通の尺度上で表示する。

⑥ 出題範囲は、各科目のシラバスを参照のこと。

(5) 出題言語：日本語及び英語により出題するので、受験者は、受験希望の大学等の指定を踏まえて、出願の際にどちらかを申告する（日本語の科目は日本語による出題のみ）。

(6) 解答方式：多肢選択方式（マークシート）（日本語の科目は記述式を含む。）

4. 出願の手続き等

(1) 出願手続き

① 願 書：所定のもの

② 受験料：国 内	(1 科目のみの受験者)	5,460 円 (税込み)
	(2 科目以上の受験者)	10,920 円 (税込み)
国 外	インド	500 ルピー
	インドネシア	40,000 ルピア
	韓国 (1 科目のみの受験者)	30,000 ウォン
	(2 科目以上の受験者)	50,000 ウォン
	シンガポール	36 シンガポールドル
	タイ	300 バーツ
	中国台湾 (1 科目のみの受験者)	1,200 台湾ドル
	(2 科目以上の受験者)	1,600 台湾ドル
	フィリピン	250 ペソ
	ベトナム	70,000 ドン
	マレーシア	60 リンギット
	ミャンマー	15 FEC
	モンゴル	10,000 トウグルグ
	ロシア	300 ルーブル

③ 出 願：国 内 機構留学生事業部留学試験課に提出する。

国 外 各国・地域の現地機関に提出する。

(2) 受験案内

出願手続き等の細目については、「日本留学試験受験案内」により公表する。

販売の方法：国 内 2月下旬から1部510円（消費税含む）で全国の主要書店において販売

国 外 各国・地域の現地機関と調整のうえ、決定する。

(3) 受験票の送付

国 内：願書を受理したものについて、次に掲げる時期に発送する。

第1回 5月下旬 第2回 10月下旬

国 外：各国・地域の現地機関と調整のうえ、決定する。

5. 結果の通知等

(1) 受験者への通知

次に掲げる時期に、試験の成績を通知する。

第1回 7月下旬 第2回 12月下旬

(2) 大学等への通知

第1回については7月下旬から、第2回については12月下旬から、大学等からの成績照会への対応を開始する。

照会先

〒153-8503 東京都目黒区駒場4-5-29

独立行政法人日本学生支援機構

留学生事業部留学試験課

電話 03-6407-7457

FAX 03-6407-7462

E-Mail aju@jasso.go.jp

※ 上記内容は、日本学生支援機構のホームページを参照し、1部改変したものです。実際の試験日程などについては、下記ホームページで最新情報を確認してください。

日本学生支援機構 <http://www.jasso.go.jp/>

日本語シラバス

試験の目的

日本語シラバス

- I 測定対象能力
 - II 試験が想定する課題の類型
 - III 試験で要求される言語技能
 - IV 試験で要求される言語下位技能
 - V 試験に含まれる表現類型（テキストタイプ）
 - VI 試験にあらわれる話題（トピック）
 - VII 試験にあらわれる場面（場所，時間，対人関係，対人形態，媒体など）
 - VIII 試験にあらわれる言語的要素（テキスト関連）
 - IX 試験にあらわれる非言語的要素（視覚情報関連）
 - X 試験の課題を達成するために前提となる知識
-

試験の目的

この試験は、外国人留学生として日本の高等教育機関、特に大学学部に留学を希望する者が、日本の大学での勉学に対応できる日本語力（アカデミック・ジャパニーズ）をどの程度習得しているかをシングルスケールで測定することを目的とする。

なお、試験は、聴解、聴読解、読解及び記述により出題する。

日本語シラバス

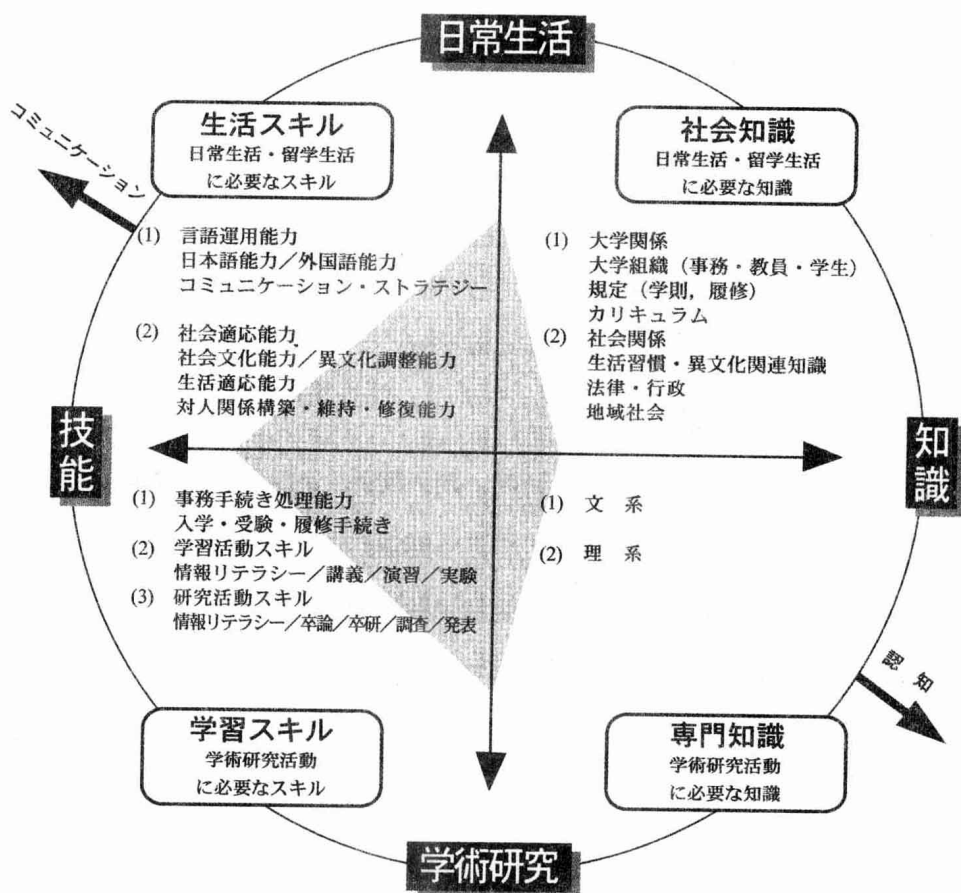
I 測定対象能力

この試験が測ろうとする能力は、下記概念図の網かけ部分である。

この試験は、単に日本語に関する知識の有無や知識の量を測定するアチーブメント・テストではない。また、日本での生活能力があるかを測る人格テストでもない。

この試験は、日本での留学生生活をおくる上で、日本語によるコミュニケーション能力があるかどうか、また、自国での初等・中等教育修了までに習得した知識を前

提としながら、日本の大学で学習・研究活動を行うための日本語能力があるかどうかを測定する言語テストであり、かつ、標準テストである。



II 試験が想定する課題の類型

課題とは、日本に留学するに当たって、あるいは、日本の大学に入学後に直面する現実的な諸課題の総称である。課題には、単純なものもあれば、複雑なものもある。生活に関するものもあれば、勉学に関するものもある。また、いくつかの課題が複合的に生ずることもある。以下、課題の類型の大枠を示す。

1. 指示を実行する。
2. 事物を特定する。
3. 事物を描写する。
4. 事物を比較・配列する。
5. 物事の推移・展開を予測する。

6. 物事の背景や意図を把握する。
7. 物事を構造化し、法則性を発見する。
8. その他

III 試験で要求される言語技能

日本での留學生活の中で遭遇する諸課題を解決するために必要となる言語技能を以下に示す（*「話す」「翻訳する」については部分的ないし間接的測定となる。）。

1. 聞く
2. 話す *
3. 読む
4. 書く
5. 翻訳する *

IV 試験で要求される言語下位技能

上記の5つの言語技能の下位技能として、以下の類型が考えられる。

1. 情報の全体の流れをとらえる。
2. 情報の全体をある判断や評価をしながらとらえる。
3. 特定の情報を抽出してとらえる。
4. 推測しながら情報をとらえる。
5. 予測しながら情報をとらえる。
6. その他

V 試験に含まれる表現類型（テキストタイプ）

表現類型（テキストタイプ）とは、留學生の言語生活を取り囲む様々な言語表現の類型である。表現類型には、書きことばとして、手で書かれたり印刷されたりするものもあれば、話しことばとして、直接人々の口から発せられるものもある。

たとえば、手紙の書き方にしても、お祝い、お見舞い、招待、通知、依頼、お礼、謝罪、年賀状など、その表現には様々な類型がある。電報、ファックス、テレックス、社内文書、公文書、掲示物、論文、随筆、小説、詩歌などもそれぞれ固有の類型を持つ。

話しことばについても、自己紹介、依頼、謝罪、指示、電話の応対、慶弔のあいさつ、講義、演習、スピーチ、報告、司会、アナウンス、物売りの掛け声、放送の話し方、朗読など、それぞれ独特の型を持っている。

以下、表現類型の具体例を示す。

1. 書きことば

- (1) 標示・標識・看板・掲示類
- (2) 標語・ポスター類
- (3) 宣伝・広告の文書
- (4) カタログ，パンフレット類
- (5) 事務書類（各種書式）
- (6) 新聞，雑誌，学会誌，学術論文などの記事・広告・案内
- (7) 手紙，はがき，創作物類
- (8) 板書・メモ類
- (9) 図表，カード類
- (10) 各種書籍・文献
- (11) 各種辞典類

2. 話しことば

- (1) 対人関係作り・維持に関するもの
- (2) 指示・命令に関するもの
- (3) 事物や人物の記述・メタ言語に関するもの
- (4) 架空の世界に関するもの
- (5) 放送メディア（ラジオ・テレビなど）に関するもの
- (6) 公共アナウンスに関するもの
- (7) 街頭アナウンスに関するもの
- (8) スピーチ
- (9) 講義・演習・実験・フィールドワークなどに関するもの
- (10) 打合せ・討論（会議，シンポジウム，意見交換など）に関するもの
- (11) 面接・インタビューに関するもの
- (12) その他

VI 試験にあらわれる話題（トピック）

話題には，場面の制約を受けるものと受けないものがある。また，話題と場面の関係には，偶然的な関係と必然的な関係がある。偶然的な関係とは，どこにいても話することができる話題（人物について，生きがいについてなど）のように，話される話題と場面との必然的な結び付きが希薄なもののことである。

他方，ある特定の場面ではある特定の会話が行われるという場合（郵便局，駅，旅行代理店での会話など）には，話題と場面の間には必然的な関係がある。その意味で，場面という概念は，複合的なものであり，人物，時，背景（場所）とともに，